

# 「政治的教養を育む教育」の展開 ～有権者として求められる力を身に付けるために～

○ ここでは、生徒向け副教材に掲載されたいくつかの指導事例を、卒業までを見通した指導計画に位置付けた例を示しました。それぞれの事例について、大まかな実施時期を設定し、指導の内容や留意点等を記載しています。各学校においては、本計画例を参考にし、学校や地域の実態に応じた計画を作成し、指導の充実を図ることが求められます。

<p><b>1 本副教材の活用のねらい</b> <span style="float: right;">指導資料P. 6</span></p> <p>①現実の具体的政治事象を取り扱うことによる政治的教養の育成 ②違法な選挙運動を行うことがないような選挙制度の理解</p>	<p><b>2 国家・社会の形成者として求められる力</b> <span style="float: right;">指導資料P. 19、副教材P. 30</span></p> <p>①論理的思考力（とりわけ根拠をもって主張し他者を説得する力） ②現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力 ③現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決（合意形成・意思決定）する力 ④公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度</p>	<p><b>3 取り入れたい学習方法</b> <span style="float: right;">指導資料P. 20、副教材P. 31</span></p> <p>①正解が一つに定まらない問いに取り組む学び ②学習したことを活用して解決策を考える学び ③他者との対話や議論により、考えを深めていく学び</p>
---	--	--

※ 1～3に留意し、身に付けさせたい力やねらい、ねらいの達成に効果的な学習方法を設定し、計画を立てます。

	4月	7月	8月	12月	1月	3月
<p><b>第1学年</b></p> <p>【目標(例)】 有権者として身に付けるべき資質とは何かということについての考察及び話し合いのルールや方式などの習得</p>	<p><b>■有権者になるということ</b> [P. 6～7] ホームルーム活動（1時間）</p> <p>【留意点】 政治的教養を高め、有権者として身に付けるべき資質は何かということについて考える際の導入として位置付けます。</p>	<p><b>■民主政治と話し合い(話し合い、討論の手法①)</b> [P. 32～43] ホームルーム活動（1時間）</p> <p>【留意点】 事前に必要な情報を収集し分析したり、反論を想定して自分の考えを整理したりして、自分の考えや意見の根拠を明確にして論理的に述べるができるようになります。</p>	<p><b>■合意形成(話し合い、討論の手法②)</b> [P. 32～43] ホームルーム活動（1時間）</p> <p>【留意点】 テーマを参加者が話し合って決める、テーマを話し合う必要性を共有するなど配慮して、テーマを設定します。</p>			
<p><b>第2学年</b></p> <p>【目標(例)】 投票についての実践的な知識の習得及び政治的課題などについての論理的な考察、判断</p>	<p><b>■選挙の実際</b> 本資料 指導事例1 [P. 8～19] ホームルーム活動（1または2時間）</p> <p>【留意点】 実際の選挙の流れを実感でき、投票日に主体的に投票所に向かい、投票できるような実践的な知識を身に付けさせます。</p>	<p><b>■模擬選挙</b> 本資料 指導事例2 [P. 52～57] 総合的な学習の時間など（5時間）</p> <p>【留意点】 現実の政治的課題を把握し、深く考え、判断するという学習効果とともに、投票前に議論を行うことにより考えを深めていくという効果を期待します。</p>	<p><b>■政策論争(ディベート)</b> [P. 38～43] 公民科の授業（3時間）</p> <p>【留意点】 多面的・多角的に調べ、論理的に考え、積極的に発言し、議論して望ましい問題解決の在り方を考えさせます。</p>			
<p><b>第3学年</b></p> <p>【目標(例)】 有権者としての自覚の育成及び政治参加に対する関心の向上、国民投票の流れの理解</p>	<p><b>■年代別投票率と政策</b> [P. 24～27] ホームルーム活動（1時間）</p> <p>【留意点】 若い世代の低投票率が続くことのような弊害が生じる可能性があるかについて具体的に考察させ、有権者としての自覚を育むことが大切です。</p>	<p><b>■模擬議会</b> [P. 78～89] 総合的な学習の時間など（5時間）</p> <p>【留意点】 議会における議案の審議過程の体験を通じて、議会制民主主義と政治参加に対する関心を高める、自分の意見には根拠が必要であることを理解する、異なる立場の意見がどのような根拠に基づいて主張されているかを考察することなどを期待します。</p>	<p><b>■憲法改正国民投票</b> [P. 28～29] ホームルーム活動（1時間）</p> <p>【留意点】 選挙権と同様に基本的な制度・仕組みについて理解させる必要があり、副教材を用いて丁寧に説明することが求められます。</p>			

副教材を位置付けた年間指導計画作成における配慮事項 指導資料P. 11～14

※副教材等は、公民科を担当する教員だけでなく、全ての教員の指導で活用されることが期待されています。

- ①公民科の科目「現代社会」、「政治・経済」の年間指導計画を作成する際、副教材の活用場面を想定しておくこと。
- ②総合的な学習の時間や特別活動等で学校として副教材を活用する際、公民科の指導との関連を踏まえておくこと。
- ③学校外部の関係機関、関係者と連携、協働して副教材を活用した出前授業等を実施する際に留意すべき点を明確にしておくこと。

※ [ ] 内のページ数は副教材のページ数を示しています。